

東日本大震災被災地復興応援プロジェクト

～東西留学生復興応援の絆～

「被災留学生・外国人県民の視点」

特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会会長 田中 カズ子

TANAKA Kazuko

第1章 はじめに

事業名称：東日本大震災被災地復興応援プロジェクト

～東西留学生復興応援の絆～「被災留学生・外国人県民の視点」

1990年設立の当協会は、日本をはじめ世界各地で活躍する志高い留学生、留学生OB/OGとの幅広い交流で国際理解を深めることをモットーにして、大きな夢を持って日本にやってきた各国の留学生とともに、世界を舞台に他の国々のことも考えられる人々を増やしてゆけるような国際人財ネットワークを創りたいと考え活動してきました。

そして、今日まで21世紀を担う世界の若者たちの平和を希う魂と将来の希望に敬意を表し、そのような志をもつ留学生たちを応援してきました。

一昨年3月11日の東日本大震災では多くの方が被災し、留学生も被災しました。遠く離れた母国のご両親やご親戚、友人から帰国を促され、多くの留学生が母国に帰っていきました。しかし、様々な理由で帰国せず日本に留まった留学生たちもいました。

私どもは、関西地区留学生たちと公益財団法人兵庫県国際交流協会と協働して、被災した東日本の留学生たちを招いてホームステイを行いました。

不安と不自由の中で頼ることもできず暮らしていた被災留学生たちが兵庫県下の家庭に宿泊し、久しぶりに暖かい食べ物を食べてゆっくと布団で眠ることができて、心の安らぎを取り戻す一助となりました。

このことがきっかけになって、被災留学生・外国人県民の視点から東日本大震災を語る報告会や勉強会、また、浜岡原子力発電所の見学バスツアーではしっかり自分の目で確かめ、この東日本大震災によってもたらされた教訓をどのように平和貢献に寄与できるか？を第1回「世界の若者サミット」で話し合いました。

本年、当協会は阪神淡路大震災の体験もふまえて、志高い留学生と一緒に大震災の経験と教訓を礎にして、困難な時を共に生き、支えあう優しさ、大切さを心に持って、この被災地復興応援プロジェクト実行委員会を立ち上げました。

第2章 ホームステイ活動

<3月の大震災当初にホームステイを呼びかけた関西圏留学生のメッセージ>

☆東日本大震災被災留学生のみなさんへ☆

東日本大震災の発生後、帰国せずに、深刻な状況下でもお互いに助け合いながら過ごされている留学生が多いと聞いております。

私たち関西の留学生は、東北地方の大学に留学している皆さんと一緒に向き合っていきたい気持ちで一杯ですが、現場に行きたくても行けません。

そこで、私たちは、皆さんが一つの旅として関西を体験し、関西の留学生とのコミュニケーションをより豊かにし、神戸・兵庫・関西の日本人家庭との絆をつくってもらえるようホームステイを呼びかけたいと思います。

私たちは、できる限り、皆さんのあらゆることを応援していきますので、将来に向けて一緒に頑張りましょう。

∞神戸大学・関西学院大学・神戸学院大学・兵庫県立大学の国際友好交流留学生より∞

関西圏留学生たちの呼びかけメッセージに応じて、日本に留まった被災留学生のみなさんが2011年4月に兵庫県内でホームステイをしました。

東日本大震災被災留学生復興応援ホームステイ実行委員会より報告書を公開いたしますのでご覧ください。<http://science.or.jp/archives/327>

第3章 東西留学生被災地交流学習研修事業

<よみがえる大地！東西留学生、外国人県民の視点から>

開催日：2011年10月10日(祝)

場 所：神戸中華会館 東亜ホール（兵庫県神戸市中央区下山手通2-13-9）

ホームステイに来県した東日本被災留学生たちの現況報告及び兵庫県下の大学留学生、日本人学生、外国人県民、専門家によるパネルディスカッションを行い、留学生、外国人県民の視点から東日本大震災の復興応援活動を継続実施するため、阪神淡路大震災の災害からの学びや教訓を活かした共有を考える震災復興報告会および勉強会を開催しました（東日本大震災復興報告写真をCDに収録し配布）。

報告会および勉強会：「被災留学生、外国人県民の視点から東日本大震災の体験を語る」

* 発表者5名

- ①筑波大学（中国人留学生）②東北大学（ブラジル人留学生）
- ③関西学院大学（韓国人留学生）④神戸女子大学（アメリカ人講師）
- ⑤神戸学院大学（日本人学生）

* 代表メッセージ1名 関西学院大学（中国人留学生OG）

会場いっぱいの約100人の出席者は、真剣に東西留学生・外国人県民の視点から東日本大震災を考えることの大切さを勉強しました。神戸学院大学の日本学生の発表からは、東北でのボランティア活動の重要な意義を学ぶことができました。

当日、みなさんの復興応援募金は、アルバイト先を失った留学生たちの生活援助のためにお渡ししました。みなさんのご支援、ご協力まことにありがとうございました。

第4章 ～自分の目で原子力発電所は一体どんな物か確かめよう？～

＜東西留学生・外国人県民の視点から考える浜岡原子力館への研修バスツアー＞

開催日：2012年1月15日（日）

場 所：日本商工会議所福利研修センター周辺地域（静岡県浜松市西区村櫛町4597）

◇参加者：45名（神戸⇄津⇄浜松往復バス運行）

神戸大学、関西学院大学、甲南大学、神戸市外国語大学、三重大学
上記に加え、筑波大学から留学生2名が新幹線で合流し集会に参加
（国籍：中国、ベトナム、エジプト、マリ〈アフリカ〉、アメリカ）

兵庫県地域：神戸・学生青年センター、健康道場サラ・シャンティ

大阪府地域：大阪市女性国際交流グループ（OWI）

引率教授：京都産業大学名誉教授、三重大学国際交流センター教授2名

小學校生徒：津市立養正小學校

地域住民：静岡県下の地域みなさん

実施協力：東日本被災留学生・関西圏留学生・OB/OG有志

国際人財ネットワーク協会

日本商工会議所浜松研修センター

兵庫県下の留学生たちが東日本被災留学生たちと継続的な復興応援の絆を深めるため、今後の実践活動に向けた合同学習研修会を実施しました。

第5章 第1回「世界の若者サミット」“You Tube” <http://science.or.jp/archives/463>

＜世界の若者サミット—世界市民になるためのよりよい未来を求めて—＞

開催日：2012年3月17日（土）13：30～17：00

場 所：神戸市“しあわせの村” 研修館ホール（神戸市北区山田町下谷上字中一里山14-1）

主 催：特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会

共 催：（財）こうべ市民福祉振興協会 在タイ国際人財ネットワーク協会

国際学生人財エンタープライズ（ISE）

後 援：外務省 神戸市 中華人民共和国大阪総領事館

在大阪パキスタン・イスラム共和国領事館 インドネシア共和国総領事館

在神戸ブラジル連邦共和国名誉総領事館

助 成：財団法人 KDDI 財団

◆プログラム

第一部：「世界の若者サミット—世界市民になるためのよりよい未来を求めて—」

テーマ：留学生とともに震災復興支援を考える！

国際的な視野をもって社会に貢献したいと日本に来ている各国の留学生たちが日本語でサミットを開き、東日本大震災被災留学生の現状を発表しました。引き続き、復興支援活動について会場の参加者と東北大学研究室の留学生たちとインターネット交信を実施しました。

パネリスト：中国・インドネシア・タイ・エジプト・パキスタンの留学生 0B/0G

第二部：インドネシアの楽器アングルン演奏と会場全体の参加者と一緒に合奏しました。

演奏指導—神戸インドネシア友の会

○会場展示：後援各国の文化・歴史・暮らしの様子ポスター、小冊子、観光案内、民芸品

◆反響・成果

- ① 東北大学から3人の留学生が来県し、ホームステイを体験しながら交流できました。
- ② 彼らの活動は関西と東北を繋げ、新たな絆と友好交流を育みました。
- ③ 会場の参加者と東北大学研究室で待機していた留学生たち4人との交信は、遠距離なことと、大学内回線通信容量が不十分であったため映像が時々途切れることがありましたが、みごとに働く留学生たちの真摯な様子に会場から拍手が沸きあがりました。

映像を担って活躍した関西圏留学生は、前日から東北大学留学生たちとテスト交信を施し、意気高く国際貢献の場を感じ認識しました。

- ④ 当協会は、留学生として日本で学んでいる外国人たちが自分の母国あるいは留学生の視点で2011年3月11日に起こった東日本大震災の復興について、よりよい未来を求めた彼らの主張を真摯に受けとめ、「被災留学生・外国人県民の視点」と題した1冊の本を制作することを決議しました。

第6章 ～共に生き、支えあい、繋がる命の絆～

<阪神淡路大震災18周年記念・東日本大震災復興応援チャリティコンサート>

東日本大震災で被災され、兵庫県に避難生活中のみなさんは、本年1月25日現在で1,038人（復興庁発表）となりました。

また、「東日本大震災「支援」の今とこれから—支援と協働へ」の震災避難アンケートによると79%の人が「震災関係のコミュニティーや交流会に参加していない」と回答が

ありました。

大震災の影響で家族や家や仕事を失い、故郷を遠く離れ慣れない土地での生活は、想像を超える不安の日々でしょうとお察しいたます。

そこで、当協会は、～共に生き、支えあい・繋がる命の絆～チャリティコンサートに避難生活中の被災者ご家族をご招待して、県民と共に心をつなぎ、明日への希望を繋ぐコンサートを開催しようと企画しました。

私たちは、阪神淡路大震災の体験者として、困難な時を共に生き、支えあい、繋がり合うことの大切さと人の優しさ、暖かさを確認し続けながら育ててきた経験を活かしながら、平素に国際交流活動で培った高い志の留学生たちも本企画の中心となって、3・11東日本大震災の復興応援では国を超えてお見舞いの心を寄せ、被災地に向かい瓦礫の整理や小学校等の教室で民族楽器、歌や踊りの披露をしてきました。

復興応援チャリティコンサートを心待ちの被災者のみなさまをお迎えして“共に生き、支えあい、繋がる命の絆”を共有するとともに、大志を抱き来日された留学生のみなさまの真摯な研鑽を思い、国を超えた絆の結びつき、新たな年のしあわせを祈念しました。

このたび、東日本大震災被災地復興応援プロジェクト事業にご指導、ご鞭撻、ご協力をいただき関係諸団体のみなさまに篤く御礼を申し上げます。

■伝統芸能を通じ、絆深めるチャリティコンサート（神戸朝日ホール・参加者 542 人）
[2013年1月18日の神戸新聞ブログに掲載されました。](#) ご参照ください。

当協会ホームページ <http://science.or.jp/archives/543> でもご覧いただけます。

第7章 課題

<被災留学生の就活専門研修セミナーの企画>

今の時期、特に東北地域は寒中であってアルバイトも厳しい中、留学生の就職はもっと深刻だろうと拝察しています。当協会は1997年から留学生の就職支援に関する就活研修セミナー、経済産業省「アジア人財資金構想—留学生の就職支援」の委託事業を担ってきた経験があり、そのノウハウを東北地域の日本企業に就職を希望する留学生に伝え、結果、地域の企業に就職できれば、独自の専門分野を活かして活躍できる場の基盤ともなる『ライフステージ』が整ってくるとともに企業、地域社会に貢献できると確信しています。

当協会の着実な体制のもとに平和な未来の復興に役立つことを目的として、本研修セミナーを受講し企業に就職した先輩留学生たちが宮城県で応援できることを課題に、昨年からは厚生労働省兵庫労働局と宮城労働局に情報を伺っています。留学生の健闘に期待します。 <http://bit.ly/science-center>

参考 1

<～東西留学生復興応援の絆～「被災留学生・外国人県民の視点」発刊>

活動記録 発刊書籍名	東日本大震災被災地復興応援プロジェクト事業 ～東西留学生復興応援の絆～「被災留学生・外国人県民の視点」 ・発刊日：阪神淡路大震災 18 周年記念 2013 年 1 月 17 日 ・発行責任者：特定非営利活動法人国際教育文化交流協会会長 田中カズ子 ・編集者：特定非営利活動法人国際教育文化交流協会常務理事 小林公慈
事業名	東日本大震災被災地復興応援プロジェクト事業
主催団体	特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会 東日本大震災被災地復興応援プロジェクト実行委員会
共催団体	(財) こうべ市民福祉振興協会 神戸地区中国人留学生学友会 仙台地区中国留学生学友会 国際人財ネットワーク協会 国際学生人財エンタープライズ (ISE)
活動実績	2012 年 4 月～2013 年 1 月までの各種行事の論文執筆および実働の記録
東西留学生 在籍大学	神戸大学・関西学院大学・兵庫県立大学・神戸学院大学・三重大学・東北大学・筑波大学・宇都宮大学・茨城大学・セントメリー日本語学院
各種行事 内 容	I. 東日本大震災被災留学生復興応援ホームステイ II. 東日本大震災復興事業 報告会・勉強会 ～被災留学生・外国人県民の視点から東日本大震災の体験を語る～ III. 東西留学生・外国人県民の視点から考える浜岡原子力館への研修バスツアー ～自分の目で原子力発電所は一体どんな物か確かめよう？～ IV. 第 1 回「世界の若者サミット—留学生とともに震災復興支援を考える！」 テーマ：東日本大震災復興支援の教訓を共有・発信するキミの社会貢献とは？ V. 東日本大震災被災地復興応援事業～共に生き、支えあい、繋がる命の絆～ 阪神淡路大震災 18 周年・東日本大震災復興応援チャリティコンサート
後 援	外務省 文化庁 兵庫県 神戸市 大阪府 大阪市 (公財) 兵庫県国際交流協会 (公財) 神戸国際協力交流協会 中華人民共和国在大阪総領事館 在大阪インドネシア共和国総領事館 在大阪パキスタン・イスラム共和国領事館 在神戸ブラジル連邦共和国名誉総領事館 在大阪スリランカ民主社会主義共和国名誉総領事館 日本商工会議所 神戸青年会議所 国際交流基金 NHK 神戸放送局

- ◆ 上記刊行本 (1000 円) は全額、「第 7 章 課題」で紹介した被災留学生の就職支援に役立てます。
ご購入ご希望の方は、当協会事務局：Mail : jinzai@science.or.jp までご連絡ください。

参考2

お互いを理解し、お互いの可能性を追求して、大智慧を共有し、世界と日本の架け橋に！

国際教育文化交流協会 SIENCE



協会概要

当協会は、地域福祉活動、ユネスコ事業への参画、留学生との交流事業などを母体として、1990年に発足しました。日本で学ぶ外国人留学生の支援活動を続け、現在は主に、留学生の就職支援、地域社会との交流推進、国際人財ネットワーク創りに向けて活動を行っています。2003年2月に特定非営利活動法人(NPO)の認証を受けています。

協会名	特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会 (SIENCE) (Society International Education and Cultural Exchange)
所在地	〒657-0013 神戸市灘区六甲台町12番21-301号 URL : http://www.sience.or.jp/ TEL/FAX 078-801-7657 mail: jinzai@sience.or.jp
設立年月日	1990年12月5日

設立の目的 在日の留学生をはじめ在日外国人、一般市民に対し、国際理解の向上に関する事業を行い、21世紀の国際的な人財交流を推進するグローバルネットワークを構築し、地域における国際化の推進、啓発、普及をもって、国際平和に貢献することを目的としています。

代表者	田中 カズ子 ～プロフィール～ 神戸市生まれ 特定非営利活動法人国際教育文化交流協会会長 担当: 事業企画制作/総合プロデュース 社団法人日本ユネスコ協会連盟個人会員 大阪市女性国際交流事業海外派遣(OWD)運営委員 神戸地区中国人留学生学友会顧問 特定非営利活動法人JAFSA(国際教育交流協議会)個人会員
-----	--



21世紀を担う世界の若者たちが、平和と繁栄に寄与するリーダーとして、志高く、世界に飛躍するために…特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会(SIENCE)は活動を継続します。

URL <http://www.sience.or.jp>

沿革

- 1990年12月5日 国際教育文化交流協会 設立
- 1990年 大阪市女性国際交流事業海外派遣(田中カズ子) イタリア ドイツ フランス
- 1992年 大阪市女性国際交流事業 国内派遣(田中カズ子) 岡山 山口 島根
- 1992年～1999年 台湾、インドネシア留学生の保証人(田中勝明 田中カズ子)
- 1993年～1996年 チャリティ事業企画制作/総合プロデュース
 - ①世界の民族芸能舞踊音楽チャリティコンサートによる国内外支援(8回)
 - ②阪神淡路大震災留学生救援活動
- 1997年～留学生の就職に関するアンケート調査実施(関西圏留学生1,431人・関西圏企業500社) 留学生の就職支援ゼミナール FORUM SIENCE 開催
- 1998年～2008年(第1回～第11回)「世界の若者会議」企画制作開催。テレビ会議(日本⇄中国)
- 2002年～留学生の参画による国際理解教育推進事業(兵庫県下小・中学校)
- 2003年 特定非営利活動法人(NPO法人) 認証
- 2005年 国際人財ネットワーク協会設立。「世界の若者会議2005」テレビ会議(日本⇄タイ国)
- 2006年 在タイ国際人財ネットワーク協会設立
- 2007年～2009年 経済産業省「アジア人財資金構想一留学生の就職支援」委託事業 兵庫県
- 2008年～国際人財ネットワーク事業【全国留学生就職サポートセンター機能】推進
- 2010年 国際教育文化交流協会設立20周年記念事業・阪神・淡路大震災15周年記念事業
- 2011年～2012年 留学生の就職活動専門研修事業・東日本大震災被災留学生復興支援活動
- 2012年 第1回「世界の若者サミット」開催・通訳案内士国家試験(観光ガイド)対策講座
- 2013年1月17日 阪神淡路大震災18周年・東日本大震災被災地復興応援チャリティコンサート

表彰：神戸国際交流賞 サンテレビ企画賞 神戸キワニス社会公益賞
兵庫県国際協力功労賞 阪神・淡路大震災「1月17日は忘れない」感謝状

